

行政自治会だより

第19号

■発行所／古河市行政自治会

事務局 TEL 0280-92-3113

■発行人／会長 湯本 豊

地区長・副地区長視察研修が行われました

今回の視察研修は、2月10日東京都羽村市で、羽村市町内会連合会の皆様と古河市行政自治会の合同研修として開催されました。

“玉川上水起点のまち”羽村市は、39の町内会・自治会があり、人口約56,000人、世帯数約25,500世帯という東京都で一番人口が少ない市で、市内には日野自動車羽村工場と横田基地の一部があります。

今回の研修は羽村市町内会連合会役員の皆様と日頃抱えている問題などについて意見交換が行われました。羽村市では単身世帯が多いことやゴミの戸別収集をしているためか、自治組織加入率が低いという課題があるとのことでした。

しかし、地域でのイベント事業や自主防災に力を入れている自治組織が多く、特に田ノ上会館（公民館）の防災倉庫には、東京都の補助により、シャベル、担架、車椅子などがたくさん整備されていて、有事の際にはトランシーバーを使い、各町内会・自治会の防災リーダーと連携をとるということで、使用方法などのデモンストレーションをしていただきました。

さらに毎年9月に開催される市の総合防災訓練には、コミュニティの一員であることの自覚と防災時の社会貢献への醸成を高めることを目的として、中学2年生が参加し、地域の人達と一緒に消火や救急救命、高齢

者の避難誘導などを行い、「助けられる側ではなく、助ける側になれること」などを学んでいるという素晴らしい取り組みをお聞きしました。

東京都とはいえ、多摩川・玉川上水の豊かな水に恵まれ、花と緑があふれる羽村市。春の「さくらまつり」「チューリップまつり」に始まり、「夏祭り」や「産業祭」と、四季折々のイベントがたくさんあり、公式キャラクター「はむりん」グッズも沢山作られるなど、観光にも力を入れているようです。

研修では役員の皆様に懇切丁寧で熱心な説明をしていただくと共に、羽村市町内会連合会の皆様と交流を図ることができ、大変有意義な研修でした。

(広報委員 蜂須誠司)



活発に意見が交わされました

自治会長・行政区長委嘱状交付式及び感謝状贈呈式

平成29年度感謝状受賞者			
地区	自治会・行政区名	氏名	在職年数
第1	東長谷	黒岩 桂 三	18年
第5	裏新町	針谷 征四郎	16年
第7	新久田三丁目	渡邊 一 雄	16年
第5	栄	塚田 昌 賢	10年11カ月
第1	西鷹匠町	飯塚 博 英	9年1カ月
第10	フレッシュタウン	内藤 勝 義	9年
第3	下山一丁目	横山 泰 男	8年
第1	四丁目	長尾 勝	7年
第2	末広町	淵岡 ツヤ	6年
第4	大山一丁目	北島 徹 也	6年
第6	常盤台	浦井 章	6年
第1	二丁目	土信田 博 久	4年
第4	大山サハヤ	田中 徳 生	4年
第15	諸川上町	鶴見 好 男	4年

(敬称略 在職年数順)

4月21日、とねミドリ館（生涯学習センター総和）において、自治会長・行政区長と正副地区長の委嘱状交付式が行われ、市長から委嘱状が手渡されました。

続いて在職4年以上で退任された自治会長・行政区長に感謝状が贈呈されました。受賞者14名を代表し、フレッシュタウン行政区の内藤勝義氏が挨拶を述べられました。長い間、ありがとうございました。



市長から感謝状が贈呈されました

市民総ぐるみ清掃が行われました

5月21日（日）、爽やかな青空の下、市民総ぐるみ清掃活動が行われました。

この活動は、市民と行政が一体となって、市内の美化活動に取り組み、住みよい街づくりをテーマに、20地区行政自治会（224の自治会及び行政区）により、年2回（春・秋、古河地区は他に2回）行われている清掃活動です。

今回の清掃では、地区の子供会、中学校からお年寄りまで、市民総出で、道路敷きの清掃、雑草の除去、コサ刈り、空き缶・空き瓶・その他路上に散乱しているゴミの回収、側溝内（国・県道及び蓋のある側溝は除く）の清掃に汗を流していただきました。（広報委員 長濱弘道）



正副地区長会議報告 役員が決まりました！

4月21日、とねミドリ館（生涯学習センター総和）において、自治会長・行政区長委嘱状交付式終了後、第1回正副地区長会議が行われました。

この会議で行政自治会の新役員が決定され、新年度の事業計画や予算について協議し、承認されました。

役員及び正副地区長は、次のとおりです。

役員名簿

役職名	氏名	地区名
会長	湯本 豊	第19
副会長	熊木 津佐雄	第7
副会長	五月女 光 男	第13
理事	蜂須 誠 司	第4
理事	長濱 忍	第9
理事	那須 和 弥	第15
会計	染野 則 夫	第20
監事	長濱 弘 道	第6
監事	岩元 俊 二	第12

正副地区長名簿

地区名	地区長	副地区長
第1	小堀 英 男	須田 昭 二
第2	綿引 正 衛	齋藤 満
第3	吉田 昭 万	木村 榮 一
第4	蜂須 誠 司	上石 詔二郎
第5	中村 仁	大高 忠 男
第6	長濱 弘 道	須永 邦 光
第7	熊木 津佐雄	青柳 寛
第8	勝 広 二	中村 和 彦
第9	長濱 忍	古谷 芳 和
第10	吉葉 英 雄	金谷 清
第11	根本 武	小林 健 一
第12	岩元 俊 二	遠藤 孝 雄
第13	五月女 光 男	太田 元 行
第14	香取 茂	塚田 長 剛
第15	那須 和 弥	鈴木 榮 治
第16	梅津 信 男	森 正 吉
第17	児矢野 健 行	日毛 清
第18	渡邊 和 司	田澤 猛
第19	湯本 豊	鈴木 誠
第20	染野 則 夫	平間 基始男

地区紹介（第17回）～第13地区～

私たち、第13地区は、総和地区水海小学校、釈迦小学校の学区内に属する行政区で組織されており、砂井新田、上砂井、前林、内水海、町水海、高野、北新町の7行政区から構成され、平成24年11月にスタートした比較的新しい地区です。

地区は、利根川の北側に位置し、新4号バイパス、国道354号、県道56号が通り、向堀川、女沼川を擁する農業地及び北利根工業団地と接する新興住宅地が混在する地域です。また、最近更新された古河市ハザードマップでは、利根川が氾濫した場合、2メートルから5メートルの浸水が想定される地域に指定されています。

地区の世帯数は、最少38世帯、最大340世帯の合計約1,000世帯から構成され、役員は、地区長1名、副地区長1名、会計1名、監事2名、評議員若干名から組織され、五月女地区長のもと、一致団結して組織運営に邁進しています。また、平成24年に結成されたコミュニティ組織では、広報紙の発行、児童の見守り活動、防災訓練、クリーン作戦等を活発に行っています。

次に、第13地区の活動状況についてご紹介させていただきます。

地区では、広報委員が編集した広報紙「とねの絆」を、2月、10月の年2回発行しています。

内容は、各行政区の行事、老人会、子供会、婦人会等の活動状況やタウンミーティング、ハザードマップ説明会等での地域の問題点、意見等、多岐にわたる情報を発信し、誰でも参加できる地域広報紙を目指して活動しています。

一例を挙げますと、各行政区で開催されている長寿会、パターゴルフ等の高齢者の活動。20年前から継承されている高野子供会による8月に開催される高野地藏尊踊り大会での古河甚句披露。婦人会の視察研修旅行等の身近な話題や活動状況の詳細を紹介しております。

交通活動は、主に、地区内学区である水海小学校、釈迦小学校の通学路に地区員を配置し、児童を交通事故から守るとともに、その他の不法事案を防止する見守りを兼ねて通学時の安全・安心を確保する活動です。

活動期間は、年間4回、春の全国交通安全運動、夏の交通事故防止県民運動、秋の全国交通安全運動、年末の交通事故防止県民運動に合わせてそれぞれ2日間、午前7時から午前8時30分まで実施しています。

配置箇所は水海小学校入口、上砂井、釈迦西、釈迦北交差点、前林、4号バイパス等で、全員地区から配布された第13地区コミュニティと記されたベストとキャップを着用し、「交通安全運動実施中」の、のぼり旗を掲げ、児童の安全を確保するとともにドライバーに対する安全意識の啓発運動も行っています。

防災活動は、毎年11月に実施される秋の全国火災予防運動に併せ、年1回、第13地区住民（老人会、婦人会等含む）、水海小学校（PTA、子供会）及び古河総和消防署、古河市消防団第15・16分団等が水海小学校校庭に集まり、地域住民の防火、防災に対する意識の高揚と「自助、共助」の醸成を目的として実施しています。

訓練内容は、消火器（クンレンダー）による初期消火訓練、AED（自動体外式除細動器）を使用した応急救護訓練、消防車両の説明展示、消防団員による放水訓練、119番通報要領、家庭用火災警報器の設置義務解説等であり、参加者全員が実際に消火器、AED等を操作し体験してもらうことにより、スムーズに消火活動、人命救助ができるよう実践的な訓練に取り組んでいます。

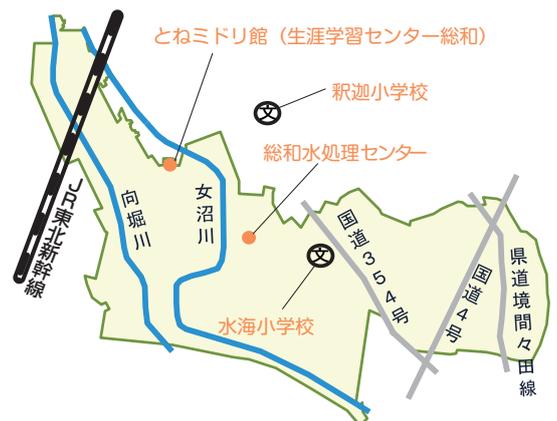
第13地区コミュニティ活動状況の一部を紹介させていただきましたが、本会は、会則第2条で、「古河市行政自治会第13地区を構成する行政区内の共助による地域課題の自主的・主体的な解決を図るための情報共有機関とし、地域のコミュニティの相互の発展と住みよい地域づくりに寄与することを目的とする」とし、我々役員全員がその目的達成に向かい、安全・安心・丁寧な地区づくりに最大限の努力をしなければならないと考えています。

（第13地区 副地区長 太田元行）

第13地区 区域



4号バイパスクリーン作戦の様子です



市内歴史散歩（第17回）

一名崎工業団地前史～名崎送信所のあゆみ～

現在、三和地区の名崎小学校の南には名崎工業団地が造成され、日野自動車古河工場の建物が建ち並んでいます。

しかし、工業団地が造成される以前のこの場所は、工場の建物ではなく大小の鉄塔が建ち並び送信所の敷地でした。

そこで今回は、三和地区の歴史に大きな影響を与えた名崎送信所について、その歴史をまとめた資料などを参考にしながら、送信所の歩みを振り返ってみます。

通信技術の発達にともない、国際通話や放送無線電話の中継などのために、昭和7(1932)年に国際電話株式会社が創設され、各地に国際通信・海外放送用の受送信施設がつけられました。送信上の方位距離等の関係から茨城県がもっとも条件にかなった地域とされたため、県内で候補地の選定に入りました。当時の逓信省電話課長が旧八俣村(三和地区の旧村の一つ)出身だったため、現在の三和地区が有力地となり、はじめ旧幸島(三和地区の旧村の一つ)・八俣村一帯が候補地に挙げられますが、いずれも耕作地が失われるという理由で地元民の猛反対により断念します。

そこで昭和8(1933)年1月から、隣接する旧名崎村(三和地区の旧村の一つ)での誘致交渉が始まりました。ここでも当初は村民の反対がありましたが、村当局・議員・地主らの尽力によって建設にこぎ着けることができました。

同年の夏には局舎など施設の建設工事が始まり、翌昭和9(1934)年には早くも通話業務が開始され、その年の10月13日、当時の茨城県知事

をはじめとする官民関係者多数を招いて落成式が盛大に挙行されました。このとき、桜の苗木数十本が地元青年団から寄贈植樹されたということです。昭和10(1935)年6月1日には、日本初の海外向け短波ラジオ放送がアメリカ西部・ハワイに送信されました。

名崎送信所は、日本を代表する短波通信施設として設備拡張などを進め、戦争による困難も乗り越え、昭和30年代には最盛期を迎えました。

しかし昭和40年代に入ると、しだいに短波通信の縮小にともなう施設の整理統合の波が押し寄せ、名崎送信所も他施設への業務統合・移管が進み、ついに昭和49(1974)年、40年にわたる短波通信業務の歴史に幕が下ろされました。

その後、日本電信電話公社(現在の日本電信電話株式会社=NTT)名崎無線送信所として運用が開始されますが、それも次第に移管・縮小され、平成21(2009)年3月にすべての送信業務が停止してその役割を終え、平成23年から新たに工業団地として生まれ変わりました。

(広報委員 二宮誠)



訃報

平成29年2月2日、栄自治会(第5地区)の塚田昌賢会長がご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

行政自治会広報委員会

委員長 梅津信男
委員 蜂須誠司 長濱弘道 熊木津佐雄
吉葉英雄 松田義章 岩元俊二
二宮 誠 黒木ヒサ子



戦前の名崎送信所(南から北を見る)

編集後記

4月に入り、針谷市長のもと湯本会長を核心として行政自治会の新年度が始まりました。「行政自治会だより」は、各地区のイベント記事及びシリーズものとして、地区紹介及び市内歴史散歩と内容を充実して掲載しておりますが、早いもので地区紹介が一巡することとなり、その後の掲載について考えております。掲載希望等、皆様の意見等をお寄せいただきたいと思います。広報委員一同皆様に愛される紙面作りに努力する所存です。(広報委員長 梅津信男)